

2026（令和8）年度
松山東雲女子大学
松山東雲短期大学

一般選抜（A日程）

学力検査【国語】60分

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（著作権の関係で不掲載）

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(斉藤 淳『アメリカの大学生が学んでいる本物の教養』による)

B

ア 型
イ 穴

ウ 粹
エ 沼

問一 傍線部 a～f のカタカナを漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問三 文中の空欄 C、D に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

問二 文中の空欄 A、B に入る語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|
| ア | C | したがって | D | かといって |
| イ | C | ところで | D | だからこそ |
| ウ | C | ようするに | D | かえって |
| エ | C | しかしながら | D | それによって |

A

ア 押問答
イ 禅問答

ウ 想定問答
エ 問答無用

問四 傍線部①「敵」のここでの意味として、最も適当なものを次から

選び、記号で答えなさい。

- ア 進化を促すもの
- イ 停滞を禁じるもの
- ウ 深化を妨げるもの
- エ 後退を阻むもの

問五 傍線部②「厳密にいうと『apple』と『りんご』は違います」の

ここでの意味として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「物」と人々との関係性によって捉え方が異なること
- イ 用いられる言語の難易によって理解度が異なること
- ウ 収穫された後の扱い方によって呼び方が異なること
- エ 植えられる土や自然環境によって風味が異なること

問六 傍線部③は、「シアトル」の何を説明するための例か。最も適当

な言葉を、文中から十字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線部④「この『わかる』ということの性質」を説明した文のう

ち最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 表面的ではなく、深く理解することが本当にわかるということであること。
- イ 部分的ではなく、全体として把握することが真のわかるであるということ。
- ウ 一様ではなく、わかるといふことには程度や段階が存在するということ。
- エ 観念的ではなく、わかるといふことには多様な経験を要するということ。

問八 この文章全体を要約した次の文章の空欄Ⅰ、Ⅱに入る最も適当

な言葉を、文中からそれぞれ三字で抜き出して答えなさい。

教養人として、安易に「わかったつもり」という状態に陥らない

ためには、知識における「Ⅰ」と人生経験における「Ⅱ」

という、二つの要素が重要である。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（著作権の関係で不掲載）

(著作権の関係で不掲載)

(鷺田清一『「待つ」ということ』による)

問三 文中の空欄Dに入る四字熟語として、最も適当なものを次から
選び、記号で答えなさい。

問一 傍線部 a ～ g について、カタカナは漢字に直し、漢字は読み方を

ひらがなで書きなさい。

- ア 終始一貫
- イ 右往左往
- ウ 一日千秋
- エ 雲散霧消

問二 文中の空欄A～Cに入る最も適当な語の組み合わせを次から選

び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | A | 足 | B | 指 | C | 手 |
| イ | A | 脚 | B | 手 | C | 指 |
| ウ | A | 手 | B | 指 | C | 脚 |
| エ | A | 指 | B | 脚 | C | 手 |

問四 文中の空欄E、Fに入る最も適当な語をそれぞれ次から選び、記
号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| E | ア | 混乱 | イ | 脱力 | ウ | 疲弊 | エ | 期待 |
| F | ア | 不安 | イ | 願望 | ウ | 理想 | エ | 反感 |

問五 傍線部①「だれもが密かに隠しもってきたはずの『待つ』という痛恨の想いも、じわりじわり漂白されつつある」について、その内容を説明した文章として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 待つことに付随する緊張感は、次第に軽いものになってきている。

イ 待つことの背後にある後ろめたさは、徐々に罪のないものになっていく。

ウ 待つことが強い辛さ悲しさは、次第に切実さを伴わなくなってきた。

エ 待つことに潜んでいる無念な思いは、徐々に鮮明なものになっていく。

問六 次の一文が入るべき箇所はどこか。文中の空欄「X」

「Z」から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

「ふるさと」のたたずまいも、いつもあるものではなく、帰郷のたびに表情を変えている。

問七 傍線部②『文化』というかたちへと醸成された」とあるが、具

体的にはどのようなものが作られていったのか。十五字以内で書きなさい。

問八 文中の空欄Gに入る一文として、最も適当なものを選び、記号で

答えなさい。

- ア ちょっと前に決めたことの結末である
- イ はるか昔に思い描いていた追憶である
- ウ やがて訪れる予想しがたい惨状である
- エ 遠い将来に実現する架空の想定である